

惜しまれて2018年に閉校
北海道小清水高等学校

「望岳拓心」の校訓を掲げ、「知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな人材の育成」を実践してきた北海道小清水高校は2010(平成22)年に創立60周年を迎えた。全校生徒は54人(2015年度現在)。大半の生徒が部活動や町内の

ボランティア活動に力を注ぐなか、ひときわ気をはいているのが書道部である。

2012(平成24)年に設立した同部は、月曜から金曜の放課後と土曜も活動。高文連の大会や各種展覧会に向けて練習を重ね、創玄展全国学生書道展や高校生国際美術展書道部門で入賞者を輩出。個人の技に磨きをかけている。



他方、教室を飛び出して披露

する書道パフォーマンスは全員の力を結集。学校祭や町民文化祭を盛り上げ、ほかの町から出張パフォーマンスを依頼されることもある。

部員たちは「毎日書くうちに上達していけるのがうれしい」「パフォーマンス中、皆の気持ちが一いつにまとまったときが最高」と口々に語り、2018(平成30)年閉校予定の母校で生涯の思い出となる時間を満喫していた。

小清水町字小清水693・1
TEL 0152・62・2853

小清水町コミュニティプラザ
町立小清水図書館

小清水町コミュニティプラザ内にある図書館は、住民サービスの向上のため、2014(平成26)年4月から一般財団法人ふれ愛こしみずが指定管理者として管理・運営中。図書館通いが楽しみのひとつになるように始めた「来館ポイ



ントサービス」は、100ポイントで500円の商品券と交換可能。町民人口の5人に1人が登録している。蔵書は約9万冊。利用状況や町民アンケートを土台に購入書籍・雑誌を見直し、初めての来館者にもわかりやすい棚づくりを展開する。館内には幼児コーナーやAVコーナー、研修室、視聴覚室を備え、子育て支援センターも併設されている。

図書館最大のイベント「図書館まつり」はこれまで2月だった開催時期を見直し、天候に不安がなく農家の収穫作業が終わる11月へと移行した。ほかに「寺子屋教室」と題して、小清水町在住の絵本作家の原画展を催すなど、さまざまな企画に知恵を絞っている。ロビーにはカプセル式コーヒーマシン(1杯100円)を設置、図書館の本をロビーまで持ち出してコーヒープラットに読むことができる。館が目標とする「居心地がよく、笑顔があふれ、利用者目線のサービスや読みたい本・資料が提供できる図書館」像に一歩一歩近づいている。

小清水町字小清水497・1
TEL 0152・62・2165

小清水のスポーツ・文化

リンクづくり名人が支える
アイススケート



町技ソフトボールと並ぶ小清水の人気スポーツは、アイススケート。小学校の体育の授業に盛り込まれ、「小清水っこ」たちの心身を鍛えてきた。支えてきたのは父母や地域の大人たち、50年近くの活動実績を持つ小清水スケート協会、スケートスポーツ少年団の皆さんだ。

少年団の活動は6〜2月。平日は夕方4時半〜6時の約2時間練習し、土日は本番の大会や記録会を迎える。小清水スケート協会には日本ス

ケート連盟のS級およびF級公認審判員が15名在籍し、オホーツクエリアの大会運営に大きく貢献している。

かつては全国大会に選手を送り出したこともある小清水だが、まちの自慢はなんといつでも「リンクづくりの名人」がいること。町営スケートリンクでシーズンを見守る山崎豊さんの存在だ。

頑丈かつ均等なリンクをつくる作業は熟練の技。積雪量や気温を見ながら「薄く何度も」水をまいていく。少年団の練習後のメンテナンスは深夜あるいは早朝に、正月返上の整水作業が続く。おかげで小清水のリンクは近隣のまちに先駆けた《氷開き》と悪天候の後もすぐに滑れる会場として広く知れ渡っている。

「うちの子も少年団で育ててもらったのでその恩返しです」。そう語る山崎さんの息子さんもいまは指導者の仲間入り。二世代、三世代で続ける小清水のアイススケートは、

寒さに負けない郷土愛に守られている。

小清水町トレーニングセンター内
小清水町字小清水693・2
TEL 0152・62・2558

町民総出で一体感を育む
小清水神社大神輿

信仰厚い氏子の方々の寄進により1962(昭和37)年に作られた小清水神社大神輿。京都の職人に発注をかけ、制作過程を確かめに小清水町から見学に行ったという話も残っている。一時休止の時期



もあつたが、2005(平成17)年から小清水神社例大祭における神輿渡御が復活。重さ約1tとも言われる大神輿を町民総出でかつぎあげ、まちの繁栄を願って町内をねり歩く。近年は人手不足を理由に、町外の助っ人を依頼する自治体も少なくないなか、小清水町では町民だけによる神輿渡御が続いており、地元一体感を育んでいる。

小清水神社
TEL 0152・62・2607

染め・紡ぎ・機織りを楽しむ
小清水手織りの会

1986(昭和61)年から活動する草木染めと手織りの女性グループ。オホーツクの草木で羊毛を染めたのち、糸車で紡いだ糸を織機で織る。コースターやマフラーなどの小物からジャケットまで思い思いの機織りを楽しんでいる。化学染料は用いずに自然の色をそのまま再現した風合いと色落ちしない染色技術で高く評価され、地元道の駅やオホーツク流水館などで好評発売中。

小清水手織りの会
TEL 0152・62・2238

